

第 70 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時：令和 2 年 11 月 20 日（金）16 時 30 分～18 時 10 分

会場：zoom によるオンライン実施

テーマ：「**新任教員が携わる災害科学研究②**」

16:30～16:35 司会・進行より趣旨及び Web 開催上の留意点の説明

16:35～17:05（発表 20 分，質疑 10 分）

地質記録から読み解く災害の履歴－地質年代学の重要性について－

話題提供者：石澤 堯史（災害理学研究部門 活断層研究分野）

概要：数百～数千年間隔の低頻度で発生する巨大災害を評価するためには、長期間に渡る災害の発生履歴を知る必要がある。そのような長期間の情報を記録するものとして重要視されているのが地質記録である。本発表では特に地質年代学に焦点を当て、地質記録から過去の災害履歴を復元する際、災害の規模や頻度推定のため年代学がどのように活用されているのかを紹介する。

17:05～17:35（発表 20 分，質疑 10 分）

東日本大震災における被災者の心のケア

話題提供者：白倉 瞳（災害医学研究部門 災害精神医学分野）

概要：私は、臨床心理士および公認心理師として、こころの健康に関する調査・研究や、こころのケア、こころの健康を高めるために役立つ知識の普及・啓発に携わってきた。2016 年に東北大学に着任して以降、東日本大震災の被災地をバックグラウンドに、上記のような調査研究やこころのケア活動に従事してきた。今回は、前所属の医学系研究科予防精神医学寄附講座および現所属の災害科学国際研究所におけるこれらの活動を振り返るとともに、今後の研究活動の展望についてもお話ししたい。

17:35～18:05（発表 20 分，質疑 10 分）

文化遺産と防災～「仙台防災枠組み 2015-2030」を読み直す

話題提供者：モリス ジョン（人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野）

概要：世界的には、文化遺産を防災と復興にかかわる重要な要因として扱う動きが広がっている。その重要な根拠が「仙台防災枠組み 2015-2030」である。対して、日本国内では、こうした認識は欠落している。その原因は、仙台枠組みの和訳文に重要な誤訳があることである。本発表では、誤訳されている部分の検証を行い、その先に見えてくる文化遺産保全と防災・減災との深い関係性について簡単に解説する。さらに、日本でこそ仙台枠組みで構想されている文化遺産を防災に活かす取り組みが進行していることを指摘して、この取り組みについての情報発信をすることの重要性を指摘する。

18:05～18:10 閉会・事務連絡等

司会・進行：安田 容子（人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野）